

授業支援クラウドにおける音楽科の可能性

西条市立西条小学校 松本 研司

西条市内の全小学校では、1人1台タブレット端末としてChromebookを使用し、授業支援クラウドは「スクールタクト」を活用している。「スクールタクト」の機能は、GIGAスクール構想による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に大変有効であると考えられる。以下、授業実践の一部を紹介する。

1 子ども同士の考えを広げる対話

「もみじ」の学習では、歌詞のキーワードとなる言葉を一人一人画像検索し、写真を貼り付けた。友達が作ったスライドに「いいね」ボタンを押したり、コメントを書いたりしたことで、子ども同士で対話しながらそれぞれが歌詞のイメージを深めることができた。〈資料1〉



〈資料1 友達のスライドにコメントをする(右端)〉

2 試行錯誤しながら深める音楽づくり

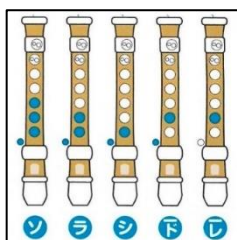
図を動かすだけで旋律をつくることができるので、低学年の児童でも簡単に作業をすることができた。〈資料2〉実際にリコーダーやミニグロッケンで音を出しながら吟味したり修正したりする過程が容易になったため、従来よりも試行錯誤しながら意欲的に音楽づくりに取り組む児童が増えた。



〈資料2 指で図を動かすことのできる音楽づくり〉

3 リコーダー練習における「個別最適な学び」

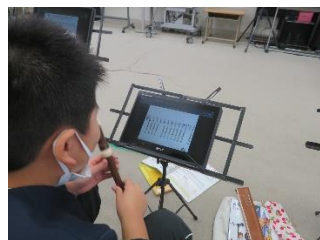
リコーダーの学習では、1画面に収めた編集楽譜とリコーダーの指使いをそれぞれのスライドに入れた。〈資料3・4〉様々なレベルの楽曲を用意し、児童自身が難易度を自己決定して学べるようにするなど、自分に合った学びを進められるようにした。



〈資料3 指使表〉



〈資料4 楽譜〉



〈譜面台にタブレットを置いて練習〉